

いきもの地図の作成 ～全国から集まった報告から～

HPに寄せられた情報は、リアルタイムに地図上に表示されます

*調査報告はリアルタイムの地図プロットだけではなく、調査終了後に、分布図を作り結果を取りまとめます。いきものといきものを取り巻く環境の変化から見てくる、生物多様性の問題について考えていきます。

いきものみつけの結果報告から ① クマゼミ

飛び地的報告の為さらなる情報が必要

● 2008～09年 いきものみつけ
● 林(1991)及び1997年産地

いきものみつけ2008～2009におけるクマゼミの分布
いきものみつけ及び過去の分布情報におけるクマゼミの分布(東日本)

いきものみつけの結果報告から ② ツマグロヒョウモン

過去に比べ情報が少なくなる必要

いきものみつけ2009におけるツマグロヒョウモンの分布
2000年におけるツマグロヒョウモンの分布(環境省第5回自然観察報告発表要綱)

みつけを通じて ～参加者のいきものみつけの活用方法～ 参加者同士のコミュニケーション(コメント機能の活用)

見つけたいきものの情報と一緒に、写真やコメントも投稿することができます。

みつけ報告
コメント一覧

みつけを通じて ～参加者のいきものみつけの活用方法～ 自然観察へのきっかけ・報告場所として(イベント情報・団体参加機能活用)

全国のいきものみつけ関連イベントの情報を、投稿や閲覧することができる。

団体参加の機能を追加。みつけに人が集まって、団体として生き物情報を集めることができる。

みつけを通じておきたこと ～参加者のいきものみつけの活用方法～ みつけに人が本当に気になるいきもの(対象種以外の生きもの報告機能の活用)

みつけに人が本当に気になるいきもの(対象種以外の生きもの報告機能の活用)

みんなのいきもの写真集



結びに

普及啓発として・・・

- ・インターネットを活用したプロジェクトの展開は、参加者が、主催者や参加者同士のコミュニケーションを築くことの手助けとなった。
- ・参加者飽きないように常にHPを目新しい状態に保っておくこと、参加者の意見をくみ取り、HPや報告システムの操作性の向上を常に目指す事が、参加者の継続的な参加につながると考えられる。

事業自体の継続性が必要。みっけにんが継続参加出来る魅力的な環境によって生物多様性への理解につながり、実際の行動につながってゆく。

生物調査として・・・

- ・報告のリアルタイムの反映が、参加者のモチベーション維持にも重要！？
- ・写真添付による報告は、普及啓発型の調査においてもデータの正確性を上げるのに役立つ。
- ・いきものみっけの報告は、単なる個人の生物記録ではなく、貴重な情報（たとえば外来種の分布拡大等）としての可能性がある。

報告をデータとして生かせるようにするためには、丁寧な報告が必要と becoming (手間だが、写真の添付、日付や確認地点を詳しく入れる)